

2023年4月20日

産業別四半期見通し調査結果 (2023年4～6月期見通し)

■長野県産業天気図

◇2023年1～3月期の現況

- 全12業種中、「曇り(普通)」が8業種、「小雨(低調)」が3業種、「雨(不調)」が1業種となった。

◇2023年4～6月期の見通し

- 「曇り(普通)」が8業種、「小雨(低調)」が3業種、「雨(不調)」が1業種となった。方向感では、「やや上昇」が2業種、「横ばい」が9業種、「やや下降」が1業種となっている。

天気図記号	2022年 10～12月期現況	2023年 1～3月期現況	2023年 4～6月期見通し
 晴れ(好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日(順調)	3 業種	0 業種	0 業種
 曇り(普通)	6 業種	8 業種	8 業種
 小雨(低調)	3 業種	3 業種	3 業種
 雨(不調)	0 業種	1 業種	1 業種

■4～6月期見通しのポイント



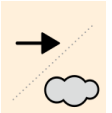


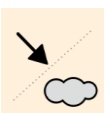


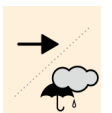


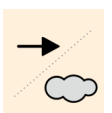


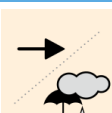


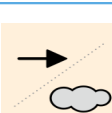


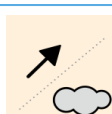


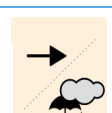


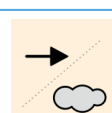




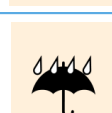




- 製造業、非製造業ともに天気図は変わらない見通し。


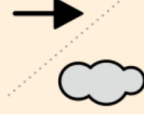
照会先
一般財団法人 長野経済研究所
調査部(担当: 桑井、伊東)
TEL: 026-224-0501






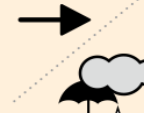
<産業別天気図一覧(12業種)>



- 調査内容:業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間:2023年3月下旬～2023年4月上旬
- 調査回答企業:県内主要企業12業種の93社



業種	前期 (22年10～12月期)	今期 (23年1～3月期)	来期 (23年4～6月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			



生産用機械	IT関連は低調が続くものの、自動車関連は底堅い見込み
<p>● 現況</p> 	<p>生産用機械の受注は、IT関連が半導体需要の落ち込みから減少したが、自動車関連は堅調で、総じて底堅かった。今後、受注は国内外ともに、IT関連は低調が続くものの、電気自動車(EV)などを中心とした自動車関連は底堅く推移し、総じて堅調な見通し。半導体やコネクタ等の部品不足は緩和するが解消には至らず、機械の納期長期化は続く見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械の受注は、国内では主力の自動車関連や建設機械関連が堅調な見込み。海外は東アジア、北米向けともに、IT関連が弱含むとみられる。 ● 半導体製造装置の受注は、スマートフォン・PC向けやデータセンター向けの半導体需要の落ち込みから伸び悩む見通し。



電子部品・デバイス	総じて受注は減少する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>電子部品の受注は、スマートフォン向けなどIT関連が低調だった。車載用は、ハイブリッド車(HV)やEV向けを中心に国内向けが底堅かったが、海外向けは、世界経済の成長鈍化に伴う需要減により受注は減少した。産業用は、半導体製造装置等の各種製造装置向けを中心に堅調だった。今後は、海外経済の成長鈍化や半導体製造装置などの輸出管理の強化、IT関連向け半導体の在庫調整が続くことから総じて受注は減少する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● IT関連は、完成品の需要が減少することで、部品受注は低調な見通し。 ● 車載用は、国内はHV向けなどで需要は底堅いが、海外は中国を中心に弱含む見込み。 ● 産業用は、半導体需要の低下から半導体製造装置等を中心に受注は伸び悩む見通し。



自動車部品	車載用半導体不足の影響が続き、受注は低調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>車載用半導体不足の影響から完成車メーカーの生産が滞り、受注は低調だった。今後は半導体不足が徐々に緩和していくものの、解消には至らず、受注は低水準で推移する見通し。また、電気料金等の高止まりが収益を圧迫することが見込まれる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内向けは、スポーツ用多目的車(SUV)を中心に新車の需要は強いものの、半導体不足により完成車メーカーの生産が滞る状況は継続し、受注は低調な見通し。 ● 北米や中国向けは、半導体不足による生産滞りにより受注は低調な見込み。東南アジア向けは、北米や中国に比べ半導体の搭載量が少ない車種が主力であることに加え、コロナ禍からの景気回復も続いており、受注は堅調な見通し。


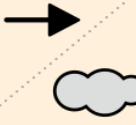
飲料製造	飲料需要は飲食店向けを中心に持ち直すが、厳しい収益環境が続く
<p>● 現況</p> 	<p>飲料需要は、全国旅行支援などにより観光客が増加したため持ち直した。今後、飲料需要は飲食店向けを中心に持ち直しの動きが続く見込み。ただ、原材料価格、ビンや段ボールなどの資材価格、電気料金などの上昇、高止まりが見込まれる中、価格転嫁は一部にとどまるとみられ、厳しい収益環境が続く見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 果汁・野菜飲料やミネラルウォーターなどの清涼飲料水は、需要期に入るほか人の移動の増加も見込まれ、受注は堅調な見込み。 ● 清酒やワインなどのアルコール飲料は、5月8日に新型コロナの感染症法上の分類が5類に移行することで、宴会や観光需要が持ち直すとみられ、前年を上回る見通し。


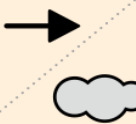
食料品製造	需要は底堅いが、収益環境は厳しさが増す見込み
<p>● 現況</p> 	<p>家庭用の需要は、調理が簡便な製品や健康志向の製品を中心に堅調で、宿泊施設や飲食店向けの業務用も観光需要の増加などから持ち直した。販売価格引き上げもあり売り上げは増加したものの、原材料や資材、電気料金等のコスト上昇の影響が大きく、利益は減少した。今後も、食料品需要は業務用を中心に持ち直す見通し。ただ、原材料の高騰や各種コストの高止まりが続く中、価格転嫁は一部にとどまるとみられ、収益環境は厳しさを増す見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 味噌、乾燥食品、加工肉などは、調理が簡便な即席みそ汁や、減塩、無添加など健康や安全面に配慮した製品を中心に底堅く推移する見通し。 ● そば粉や油揚げなどは、業務用を中心に外食需要の増加から持ち直すとみられる。



機械器具卸	機械需要は底堅さを維持するが、一部で商品不足が続く見通し
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は、自動車関連を中心に底堅かった。また、売り上げは販売価格の引き上げや納品が進んだこともあり順調だった。今後も、機械需要は高い省力化・自動化ニーズが続くため、底堅く推移する見込み。ただ、工作機械やFA機器などの一部機種の商品不足は続く見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械などの機械需要は、半導体製造装置向けは減少が見込まれるが自動車向けは引き続き堅調な見通し。制御機器や産業用ロボットなどのFA機器の需要は、省力化・自動化ニーズを背景に堅調が見込まれるが、商品不足は続く見通し。 ● 空調機器は、需要期を迎えるほか商品不足も解消されており、受注は増加する見込み。 ● 切削用工具類などの消耗品受注は、自動車関連を中心に底堅く推移する見通し。



大型小売	収益環境は厳しいものの、衣料品は売り上げ増加が見込まれる
<p>● 現況</p> 	<p>食料品は、メーカーの値上げ分を価格転嫁したこともあり、売り上げは増加した。衣料品は、客数の増加などで前年を上回る売り上げとなった。今後、食料品などは値上げが続くとみられるが、競合店間の価格競争や消費者の節約志向の強まりから、収益環境は厳しい見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 百貨店は、物産展などの集客増で食料品は堅調な見通し。また、客数増に伴い、コロナ前の水準には及ばないものの衣料品などの売り上げも増加が見込まれる。 ● スーパーは、生活必需品に対する需要は底堅く、食料品は総じて堅調な見通し。ただ、食料品などの値上げにより消費者の節約志向は強まるとみられ、買上点数は減少する見込み。また、競合店間の競争から価格転嫁は限定的とみられ、収益環境は厳しさが続く見通し。

自動車販売	納車遅れが継続し、新車販売は低水準にとどまる
<p>● 現況</p> 	<p>新車販売は、半導体不足等による納車遅れが徐々に緩和されており前年を上回った。ただ、依然として人気車を中心に納車遅れは続き、コロナ前と比較すると低水準にとどまった。今後も、納車遅れは継続するとみられ、販売台数はコロナ前に比べ低水準の見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新車販売は、スポーツ用多目的車(SUV)や環境性能の高いハイブリッド車(HV)、軽自動車を中心に堅調な需要を見込むものの、納車遅れの影響が続く見通し。 ● 中古車販売は、新車の納車遅れが緩和されてきたことで一時急激に増加した需要は落ち着き、売り上げは減少する見通し。 ● 輸入車販売は、SUVを中心に需要は底堅いが、納車遅れにより低水準の見込み。

公共工事	国土強靱化計画に伴う防災・減災工事などで例年並みの工事量を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>三遠南信自動車道やリニア中央新幹線に関連した大型工事などにより、例年並みの工事量を確保した。今後も、国土強靱化計画に伴う防災・減災工事やリニア中央新幹線の関連工事、市町村における道路の舗装・改良工事などが見込まれ、工事量は例年並みとなる見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国では、三遠南信自動車道や国土強靱化計画に伴う防災・減災の土木工事などが見込まれ、工事量は堅調な見通し。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県では、河川工事や治山工事などを中心に底堅い工事量となる見通し。 ● 市町村では、道路や水路の改修工事に加え、水道管の入れ替え工事などの発注が続き、安定した工事量を見込む。

民間工事	製造業の工場建設などを中心に堅調な工事量が見込まれる
<p>● 現況</p> 	<p>民間企業の建設投資は、製造業の工場などを新增設する動きがみられ、工事量は例年並みを確保した。新築住宅は、資材価格の上昇による建設コスト増加などの影響から持家が減少したが、分譲は需要が底堅く、全体の着工数は前年並みとなった。今後も建築コストの増加は続くと思われるが、製造業の工場建設を中心に堅調な工事量が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業の建設投資は、新型コロナの影響で投資を先送りしていた企業の設備投資などが見込まれ、安定した工事量となる見通し。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅関連は、建築コストの増加を受けて持家は伸び悩むことが予想されるが、分譲マンションの需要は底堅く、着工戸数は例年並みを見込む。

貨物	貨物量は低調で、厳しい収益環境が続く見通し
<p>● 現況</p> 	<p>部品不足等の影響で工業製品の出荷が鈍く、貨物量は伸び悩んだ。さらに、ドライバー不足によるトラック稼働率の低迷や、各種コストの上昇による収益圧迫もあり、業況は不調だった。今後も、世界経済の減速に伴う工業製品を中心とした輸出の落ち込みや、食料品などの値上げに伴う需要減などの影響から、荷動きは弱いとみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生産用機械は、世界経済の減速などに伴い完成品の出荷が弱含み、貨物量も伸び悩む見通し。自動車部品は、完成車メーカーの系列等によって濃淡はあるが、総じて部材や半導体の不足が生産を下押しし、荷動きは弱い見込み。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品や雑貨類は、相次ぐ商品の値上げに伴う需要鈍化により弱い荷動きとなる見通し。

観光	大型連休の日並びも良く、観光需要は高まる見通し
<p>● 現況</p> 	<p>全国旅行支援やスキー客を中心としたインバウンドの増加から観光需要は堅調だった。ただ、各種コスト増加に伴う収益環境の悪化や人手不足の影響が業況を下押しした。今後は、5月の大型連休の日並びの良さに加え、新型コロナの感染症法上の分類見直しに伴い観光需要は高まるが、収益環境や人手不足の面から大幅な業況改善には至らない見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旅客は、大型連休を中心に利用増が見込まれるほか、修学旅行等の団体利用の持ち直しが期待され、利用客数は増加する見通し。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊施設は、全国旅行支援が6月まで延長されることもあり、大型連休や週末を中心に予約は上向き、利用者数は堅調に推移する見込み。